

登録コード	UAA13500	開講年度	2026				
授業題目	歴史学総合演習				担当教員	豊岡 康史	
					副担当	佐藤 真紀・新津 健一郎	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				特定のテーマについて研究史の構築ができるようになる。		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				特定のテーマについて先行研究を遺漏なくサーベイできるようになる。		
(2)授業の概要	歴史学における先行研究・研究史の取扱いについて、受講生の関心にも即しつつ、幅広い視野から問題を取りあげていく。歴史を学ぶことと共に、どのように歴史を伝えるか（教えるか）にも目を配り、外国史にかかわる歴史学（おもに中国史・フランス史）という学問がどのように社会と関連するのかを考察していく。 具体的には研究史の概要を時代区分ごとにとりあげ、その意義と位置について自らの学問・研究と関わらせながら批判的に検討していく。報告は受講生の分担とし、報告のあり方が成績評価の対象となる。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 先行研究・研究史とはなにか 第2回：先行研究をいかにサーベイするか 第3回：先行研究を読み返す 第4回：先行研究を位置づける 第5回：中国古代史研究の研究史 第6回：西洋古代史研究の研究史 第7回：中国中世史研究の研究史 第8回：西洋中世史研究の研究史 第9回：中国近世史研究の研究史 第10回：西洋近世史研究の研究史 第11回：中国近代史研究の研究史 第12回：西洋近代史研究の研究史 第13回：中国現代史研究の研究史 第14回：西洋現代史研究の研究史 第15回：歴史学研究のトレンドを読む：社会史と海域史 期末試験の有無 なし						
(4)成績評価の方法	授業中の討論を通じて理解度を測り（20％）、自分の主張をどれだけ客観的にに行っているか（20％）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20％）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（20％）、理解し組み上がっているか（20％）を総合的に判断する。						
(5)成績評価の基準	理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。 客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていれば「その水準にある」と評価する。 論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	テキストの自主的な読み込みが必要。担当箇所は分けず、全て目を通した状態で授業への参加を求める。						
(7)履修上の注意	英語、中国語、日本語の読解能力を必須とする。プレゼンテーションを行う際の言語は英語、中国語、日本語のどれでも構わない。						
(8)質問、相談への対応	toyooka@shinshu-u.ac.jpへ連絡の上、アポイントメントをとること。						
【教科書】	授業中に資料を配布する。						
【参考書】	伊藤貞夫・本村凌二編『西洋古代史研究入門』東京大学出版会、1997年 岡本隆司ほか編『近代中国研究入門』東京大学出版会、2012年 木村靖二ほか編『ドイツ史研究入門』山川出版社、2014年 近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版社、2010年 佐藤彰一ほか編『フランス史研究入門』山川出版社、2011年 佐藤彰一ほか編『西洋中世史研究入門』増補改訂版、名古屋大学出版会、2005年 遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会、2010年 礪波護ほか編『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会、2006年 水島司ほか編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会、2015年 桃木至朗編『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008年 望田幸男ほか編『西洋近現代史研究入門』第3版、名古屋大学出版会、2006年						